IKE･SUNPARK防災フェスタ
「自分が助かる、他人を助けられる」知識を学ぶ

としまみどりの防災公園「IKE･SUNPARK」

所在地/東京都豊島区　　活動時期/2025年5月18日

新聞紙で作ったスリッパで進む災害脱出救助リレー

バケツリレー玉入れでは、玉を協力してバケツで運びます。

としまみどりの防災公園(IKE･SUNPARK)は2020年に開園し、普段は地域の皆様の憩いの場として賑わっていますが、災害時には防災拠点となるようにつくられています。5月18日に防災フェスタと題し、楽しみながら防災を学べる新感覚の運動会や、炊き出し訓練、初期消火訓練、応急救護訓練、防災展示などを実施し、地域の防災力向上を図りました。さらに、町会向けの防災訓練のフィールドとしても活用できる仕組みを整えました。

町会のD級可搬消防ポンプを使用した放水訓練

活動の目的
防災訓練に参加する機会が少ない年齢層、住民の方々をターゲットにすることで、気軽に参加してもらえる防災イベントを目指しました。さらに、所定のブースに参加した町会が、自町会での防災訓練実施とみなされ、自治体から認定を受けることができる仕組みを整えています。これにより、地域の防災力向上も目指しました。

取り組み・成果
東池袋に長くお住まいの方と新しく転入された方との交流の場を創出し、新旧住民が顔の見える関係を築くことで、災害時に互いに助け合う意識を育む機会を設けました。これにより地域全体の防災力向上につながることを目指しました。

今後の目標・課題
災害に強い地域をつくるため、町会向けの防災訓練の対象を広げ、より多くの地域住民にIKE･SUNPARKを活用してもらうことを目指しています。また、実際に災害が発生した際に、IKE･SUNPARKがどのような役割を果たすかを地域の皆様に正しく伝えることも、重要な使命だと考えています。

豊島消防署による講話

放水訓練のレクチャー

スタッフと住民協働による炊き出し訓練

炊き出しには備蓄水を使用しました。

「横浜グランドスラム企業表彰」受賞
～社員発案で始まる 地域貢献と働き方改革～

(株)橘木

所在地/神奈川県横浜市　　活動時期/2025年6月27日

市長より表彰状授与の様子

横浜グランドスラム企業表彰ロゴ

「横浜グランドスラム企業表彰」は、横浜市内で働きやすい職場づくりや、健康経営、SDGsの達成など、社会のニーズに応え、地域に貢献しながら経営に取り組む企業を応援することを目的とし、横浜市が実施する4つの認定･認証制度(横浜型地域貢献企業、よこはまグッドバランス企業、横浜健康経営認証、横浜市SDGs認証“Y-SDGs”)を全て取得した企業を表彰する制度です。橘木は、4つの認定･認証制度を取得、また表彰を受けることができました。

「横浜型地域貢献企業」「よこはまグッドバランス企業」認定･認証ロゴ

「横浜健康経営認証」「横浜市SDGs認証“Y-SDGs”」認定･認証ロゴ

活動の目的
会社の課題である、社員の時間外労働の削減や横浜市入札案件における受注機会の増大について検討する中で、よこはまグッドバランス企業･横浜型地域貢献企業という制度を知り、取得してきました。その後、さらに社員のエンゲージメントを高め、市内での知名度･イメージアップを図るためにグランドスラム表彰を目指しました。

取り組み・成果
各自の意識啓発･月ごとの時間外労働状況を把握しフォローすることで、時間外労働の時間数を半分近くまで減少させることができました。また、横浜型地域貢献企業取得により、横浜市の優位な入札に参加することができ、落札に至りました。

今後の目標・課題
4つの認定･認証制度には、それぞれランクがあります。取得･表彰で満足するのではなく、ランクアップを目指して努力していきます。ランクアップを目指し取り組んでいくことで、会社や社員のレベルアップにもつながるので、モチベーションを高く取り組んでいきます。

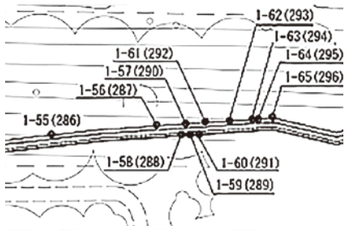
〈活動実施会社/株式会社橘木〉

点群データ・BIM活用
植林された樹々に寄り添うさんぽ道の設計提案

海の森公園

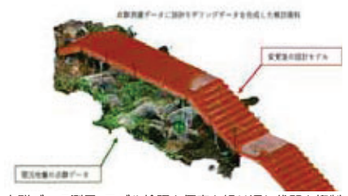
所在地/東京都江東区　　活動時期/2024年3月～2024年11月

伐採前の現場の様子

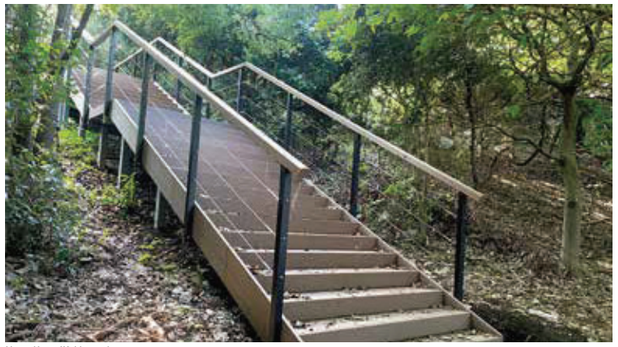


図面では園路は樹々を横切り直線的に配置されています。

検討資料



点群データ測量・モデル検証を何度も繰り返し伐開を抑制



施工後の散策園路

東京湾のゴミ埋立地に人々が植林活動をしてできた海の森公園の樹林に散策園路を整備する工事です。施工中に現地調査・再設計を繰り返し、植林された樹々の伐採数を抑制しました。点群測量・3DCADのモデルによる検証を導入することで現況の地形を優先した設計を可能にし、形成された自然環境や樹々の根系を極力傷めないよう工夫しました。また、園路の配置は公園利用者が散策で樹々に親しみながら景色の変化を楽しむことができることを狙い、大木のまわりを寄り添うように曲線を多用して園路を配置しました。

活動の目的

「令和5年度海の森公園施設整備工事(その2)」は、公園のオープンにむけた仕上げのひとつです。施工箇所は「風の森」と呼ばれるエリアで、盛土の頂上にあたる広場に対して、海風を防ぐ目的で植林された盛土の斜面部分です。また、海岸性の常緑樹が全体に植樹されたエリアで、利用者が歩くことができるさんぽ道を作ることが目的です。

取り組み・成果

人々が植林活動を行ってきた場所なので思いを大切にするため、なるべく伐採を行わないことを目指しました。全体が斜面になっている場所に平坦な散歩道をとりつけるため、なるべく樹木の根を傷めないよう現況のGLを優先しながら、3D測量による現地調査を行い、点群測量を駆使して、おさまりを計画し監督員に共有しました。

今後の目標・課題

現場では計画した設計を縄張りして可視化し、実際の樹木への影響を再度検証するといったプロセスを繰り返し行いました。今回のように既存樹木を生かすこと、生態系への影響を最小限に抑えていくことも、造園業として大切であると考えます。造園と最新技術を組み合わせて、この先ももっとかっこよく、スマートにしていきたいです。

〈活動実施会社/北部緑地株式会社〉

縄張りして可視化

さんぽ道を散策

樹木を避け、曲線を多用した設計

ムクノキに沿うように階段を配置

息づく屋根が、インスピレーションを刺激する
第23回緑化技術コンクール「環境大臣賞」

ロハス工学センター棟 ロハスの森「ホール」

所在地/福島県郡山市　　活動時期/2023年6月18日～7月31日

地下水を潅水に利用した水循環フロー図

コーヒー残渣から生成した炭がもたらす水質浄化効果

秋には季節の変化に応じた景観を創出しました。

独創的な曲面屋根を表現した屋上緑化「日本大学工学部 ロハス工学センター棟 ロハスの森『ホール』」

ロハス(LOHAS)とは、「Lifestyles of Health and Sustainability＝健康(健全)で持続可能な生活スタイル」を意味する言葉で、日本大学工学部では20年以上前からロハスの実現に向けた様々な取り組みが継続されてきました。弊社は2019年の台風19号で被災した初代「ロハスの家群」の跡地再生プロジェクトに参加し、建物の屋根緑化に対して計画提案、設計協力および施工を行いました。会津産材を用いたユニークなデザインの建築と、周囲の景観と調和した屋根緑化が、複数の業界から高い評価を得ています。

活動の目的

弊社では、グリーンインフラやネットゼロウォーターといった、人間の生活に好影響を与える付加価値の高い緑地の提案を行っています。本工事でも、屋根緑化により建物全体の冷却、CO_2固定、雨水の貯留・浄化といった様々な機能が見込まれており、研究機関と連携することでこれらのデータを得られることも大変貴重です。

取り組み・成果

急勾配、かつ複雑な形状をした屋根のため、特殊な環境にも適した材料を選定し、安全のため複数の落下・風散防止対策を講じました。また、植栽基盤の一部に炭を敷設し、水の浄化効果を検証しています。施工後3年目を迎えた現在でも屋根全体が緑で覆われた状態が保たれ、キャンパスのシンボルとなっています。

今後の目標・課題

この建物は、地下からくみ上げた水を建物全体の冷暖房と緑地の潅水に使用しています。外構エリアでも、敷地内で水資源を有効利用するための様々なコンテンツが計画されています。激甚化する気候変動に対し、建物と外構の緑地が一体となって「ロハス」が実現できるような研究拠点を目指し、今後も整備が進められます。

阿武隈川の河原をイメージした植物を使用

施主:日本大学工学部　設計:浦部智義＋岩城一郎＋中野和典＋宮岡大/日本大学工学部ロハス工学センター(計画)/株式会社はりゅうウッドスタジオ＋日本大学工学部浦部智義研究室(建築)
施工:株式会社蘇山工務店

バイオ炭で実現する、公園緑地の新しい循環モデル

海の森公園

所在地/東京都江東区　　活動時期/2024年3月13日～2025年2月28日

パーライトを施用した試験区

バイオ炭を施用した試験区

試験区の透水性測定の様子

海の森公園　バイオ炭施用植栽地

公園は、整備や運用の段階でエネルギーを消費する場でもあるため、環境負荷を低減させ、気候変動対策に貢献できる取り組みを進める必要があります。そこで、グリーバルによる東京都立海の森公園の移植・新植工事において、バイオ炭を用いた土壌改良の取り組みを行いました。都内で発生した剪定枝をバイオ炭として再利用することで、資源の循環利用を実現するとともに、植物の健全な成長促進や大気中の炭素の土壌貯留に寄与しています。今回のバイオ炭施用は都立公園では初めての試みであり、脱炭素社会の実現に向けた地域内循環モデルを構築しました。

活動の目的

公園や緑地で発生する剪定枝は、多くが廃棄物として処理されています。そこで、緑地から発生する剪定枝をバイオ炭として再利用し、地域内での資源循環と植物の健全な成長につなげることを目的としています。バイオ炭施用により、土壌改良とCO_2の固定を同時に実現し、カーボンマイナスの仕組みづくりを目指しています。

取り組み・成果

都内発生の剪定枝を原料としたバイオ炭を、移植樹木の土壌に施用しました。従来の土壌改良資材であるパーライトと比較した結果、透水性や土壌硬度に同等の改善効果が確認されました。さらに、約20t-CO_2の貯留効果を得られ、公園整備における新たな循環型のモデル事例を創出することができました。

今後の目標・課題

今回の成果をもとに、より移動距離の少ない範囲の地域内において、原料集積基地を設ける循環モデルや公園内における循環モデルづくりを目指していきます。また、バイオ炭利用によるCO_2貯留量や植物の成長によるCO_2吸収量を明らかにし、緑地の整備計画に反映されるカーボンマイナス施策へと発展させていきます 。

バイオ炭の施用状況

聴覚障がい者を対象としたスケートボード体験会を初開催

戸吹スポーツ公園

所在地/東京都八王子市　　活動時期/2025年9月15日

開会式の様子

手話を使ってレクチャーしました。

経験者は自由に滑走できます。

戸吹スポーツ公園は八王子市の北西部に位置し、日本最大級の公共スケートパーク「プラネットパーク」が設置され、日本全国から利用者が訪れています。デフリンピックの種目化を目標に設立されたスケートボード団体「日本デフスケートボード協会」との共催で、この度「デフスケートボード体験会」を初開催しました。未経験者にはスケートボードの体験会を実施。経験者にはスケートパークを開放し、利用と共に新たなコミュニケーションの場を提供しました。

集合写真

〈活動実施会社/太陽スポーツ施設株式会社〉

活動の目的

スケートパークという特殊な施設において、利活用の拡充に課題があります。本協会との関係性が築かれたことで、イベント開催によるスケートパークの認知獲得とデフスケートボード文化の発展、また聴覚障がい者のスポーツ参加に対する意思向上に貢献することを目指しました。

取り組み・成果

打合せや開催当日には手話通訳者を手配し、円滑なコミュニケーションを図りました。参加者の中には、日頃から本施設をご利用されている方や、7年ぶりにご利用された方もおられ、トリック（技）が成功した際には、互いに喜び合う様子が見られました。

今後の目標・課題

引き続き本協会との連携を継続し、障がい者の運動機会の創出を支援します。また、本公園にはサッカー場やテニスコートなどの運動施設が併設されているため、今回の経験を他の施設にも活かしながら、多様なスポーツを通じて社会福祉への貢献に取り組んでいきたいと考えています。

子どもたちの活躍の場
～つるカメえんにち～

小金井市立公園「環境楽習館」

所在地/東京都小金井市　　活動時期/2025年5月

子どもたち手作りの指輪とストラップが並ぶ小物売り場

子どもたちが紙コップを並べて作った射的ブース

射的ブースの景品(おもちゃやお菓子)

焼きそば、タピオカブースの様子。焼きそばはあっという間に売り切れました。

環境楽習館は、地域の子どもたちが放課後に遊ぶ場所として大きな役割を果たしています。指定管理業務を開始した2024年から「つるカメえんにち」と題し、子どもたちが中心となって企画、運営する縁日のイベントを行っています。3回目の開催となった2025年5月のイベントでは、「やってみたいお店」をテーマに実施しました。焼きそば、タピオカ、射的、小物屋さん、楽習館のガイドなど、たくさんのお店が並び、子どもたちが主体的に接客に励む姿が印象的でした。子どもたちに加わり、自治会や大学などからも出店いただき、売上げも上々、多くの来館者で賑わいました。

活動の目的

指定管理を始めるにあたり、施設を知っていただくきっかけ作りを目的として開催しました。子どもたちが主体となって楽しめる縁日を開催し、子どもたちの声を事業に反映させることで、施設への親しみを深め、日常的に子どもたちの居場所となるよう、利用促進を図ることとしました。

取り組み・成果

3回目の開催となりますが、毎回300人を超える来場者があります。指定管理を開始した直後は環境楽習館の来館者は毎月200人程度でした。今では毎月600人以上の来館者を集められるようになり、地域での知名度を大きく上げることに成功しました。また、リユース食器を使用することにより環境に配慮したイベントにもなりました。

今後の目標・課題

15人の子どもたちに運営スタッフとして参加していただきましたが、予想を上回る来場者により、人気ブースでは長蛇の列が発生いたしました。今後さらに来館者が増加した場合、現在の体制では対応が困難になる可能性があります。次回開催に向けて、スタッフの増員またはイベント規模の縮小等により子どもたちの負担軽減を図ります。

環境楽習館に隣接する「ハケの上広場」にも出店があり、来場者で賑わいました。

泉北をレモンの街にしよう！
「わくわくレモン・フェスタ」

堺市都市緑化センター

所在地/大阪府堺市　　活動時期/2025年4月5日

レモンの苗木を植樹している様子

様々な品種のレモン苗木を販売しました。

堺市SDGs未来都市計画を踏まえた、まちの魅力を生み出し発信していく活動を行っている「泉北レモンの街ストーリー®」同団体と定期的に連携し、毎年4月にレモンに関するイベント「わくわくレモン・フェスタ」を開催しています。フェスタでは同団体の活動報告を含む、情報発信の場として、レモンの苗木の植樹や、レモン育て方セミナー、さらにポッカサッポロフード＆ビバレッジ(株)との連携による体験型ワークショップ「レモン教室」などを実施し、SDGsに特化したレモン商品の販売も行いました。

泉北レモンの街ストーリー®の案内パネル

活動の目的

泉北レモンの街ストーリー®の活動は、泉北をレモンの木があちこちで見れる街にしよう、農薬をあまり使わない安心安全なレモンをたくさん育て販売しよう、などの様々な想いが詰められています。弊社は、情報発信や活動の場として協力し、堺市が注力して取り組む「堺市SDGs未来都市計画」に貢献することを目的として実施しました。

取り組み・成果

親子でレモンの苗木の植樹を体験して頂いたり、レモンの苗の販売により泉北レモン®の活動に協力できました。ポッカサッポロフード＆ビバレッジ(株)との連携によるレモンの歴史やキレート作用を学べる実験などを含む体験型ワークショップは、センターを訪れる小学生向けの学習プログラムとして展開できるようになりました。

今後の目標・課題

今後は、泉北レモンの街ストーリー®の活動についての情報発信だけでなく、堺市のSDGsの取り組みについての関わりも情報提供できるようにし、堺市民により深くSDGsや本プロジェクトについて考え、理解していただけるよう取り組んでいきます。イベントとしては、さらなるコンテンツの充実化が今後の課題と考えています。

レモンの育て方セミナー

泉北レモンの街ストーリー®活動展示

「レモン教室」の様子

レモン教室「キレート作用」実験体験

「池の生きものをしらべよう」外来種問題の普及啓発活動

有栖川宮記念公園

所在地/東京都港区　　活動時期/2025年5月17日

公園内の池で捕獲したアメリカザリガニ

池に仕掛けた生物捕獲装置を紹介しました。

捕獲した生物を外来種と在来種に仕分ける体験

外来種問題について、実物を交えながら紹介しました。

有栖川宮記念公園にて開催された「エコライフ・フェア MINATO 2025」に、弊社が加盟している「生物多様性みなとネットワーク」としてブースを出展し、外来種やエコラベルの啓発活動を行いました。「池の生きものをしらべよう」と題した、公園内の池の生物調査体験にボランティアスタッフとして参加し、生物捕獲装置の紹介、在来種と外来種の仕分け、ザリガニ釣り体験、外来種を題材とした紙芝居を行いました。

活動の目的

生物多様性みなとネットワークは、「港区生物多様性地域戦略」を実現するために、港区環境リサイクル支援部環境課を事務局として設置された団体です。今回のイベントでは、ポスター展示のほか、体験を通して、参加者の皆様に生物多様性の大切さを知っていただくために企画されました。

取り組み・成果

当日捕獲した生物の中には、在来種だけでなく、アメリカザリガニやグッピーなどの外来種が多く見られ、皆様驚かれていました。身近な公園で起こっている外来種問題について、実情を伝えることができました。

今後の目標・課題

有栖川宮記念公園の池では、定期的な生物調査が行われています。2年前に行われた浚渫工事の際に外来生物が駆除されましたが、昨年再び増加傾向が見られ、外来種問題の難しさを感じています。本公園は指定管理としても携わっているため、利用者に対しての生物多様性に関する普及啓発を進めていきます。

園内で捕獲した生物について、外来種と在来種に分けて展示を行いました。

100年先の心豊かなくらしのための実験場 都市と自然が共生する街づくり

TAKANAWA GATEWAY CITY(THE LINKPILLAR 1 SOUTH)

所在地/東京都港区　　活動時期/ 2024年4月～2025年2月

メインエントランスのサクラの開花

2階駅デッキからの展望

駅改札出てすぐの緑化空間

品川方面からみる「THE LINKPILLAR 1 SOUTH棟」とシンボルツリーのソメイヨシノ

JR東日本による大規模な街づくり「TAKANAWA GATEWAY CITY」単なる都市開発に留まらず、「100年先の心豊かなくらしのための実験場」をコンセプトに掲げ、持続可能な自然との共生を重視した未来志向の都市空間を目指したプロジェクトです。弊社はその一角であるTHE LINKPILLAR 1 SOUTHの造園施工を担当いたしました。ソメイヨシノだけではない多様な種のサクラを植栽しており、季節ごとに変わる表情は訪れるたびに新しい発見をもたらします。

活動の目的

TAKANAWA GATEWAY CITYにおいて未来の都市がどのように自然と共生し、人々の生活を豊かにできるかを示す「実験場」として街づくりが計画されています。都市の新たなランドマークとして圧倒的な緑量を持ち、多種多様な樹種を植栽することで生物多様性への貢献など、都市のグリーンインフラとして期待されております。

取り組み・成果

THE LINKPILLAR 1 SOUTHではシンボルツリーであるソメイヨシノだけではなく、シダレザクラやカワヅザクラなどサクラだけで10種類以上の品種を植栽しております。種類によって開花時期が異なることで長く花見の美しい景観が続き、またそれぞれわずかに異なる花の色や形を楽しむことができます。

今後の目標・課題

弊社は造園を専門とする企業として、グリーンインフラを中心とした都市緑化に注力しております。雨水管理や生物多様性の創造、ヒートアイランド対策など、自然の力を活かした技術・工法を積極的に導入し、多様なステークホルダーと連携して「ネイチャーポジティブ」に貢献していきます。

屋上にも多彩なみどりを。

6階屋上庭園の眺望

施工中のメインエントランス

完成後のメインエントランス

バリアフリー化により安心・安全に楽しめる広場へ

日比谷公園

所在地/東京都千代田区　活動時期/2023年8月～2024年7月

第二花壇エリアにて、芝生広場の整備を行いました。バリアフリー化を目的にスロープの整備や柵の撤去を行い、誰でも安心・安全に通れるように園路を拡幅しました。３Ｄモデルの活用などDXにも取り組みました。本工事は、東京都より優良工事に選定されております。

美しい芝生が広がる空間づくりによって、憩いと賑わいの場を提供しています。

地域連携＋多世代交流イベント

甲山森林公園

所在地/兵庫県西宮市　活動時期/通年

「自然・子育て・健康」をテーマに様々なイベントがあり、その中でも地域住民や児童発達支援団体、学生キャンプカウンセラーと連携し多世代交流ができるイベントを実施しています。地域や幅広い年齢の方に愛され、誰もが利用できる公園管理を行っています。

幅広い年代の方々と、公園の自然を楽しめるようなイベント開催を目指します。

動物の糞の堆肥化～サステナブルファーム～

長井海の手公園「ソレイユの丘」

所在地/神奈川県横須賀市　活動時期/2024年4月～現在継続中

アニマルビレッジ(動物舎)から発生する糞を切り返して堆肥化し、園内の花畑・野菜畑で活用しています。収穫した野菜の余りは動物の飼料として提供され、資源循環による持続可能な畑づくりを実現しています。

サークルコンポ(家畜糞尿や生ごみなどを自動で切り返し処理する堆肥化装置)の様子

熱交換塗料のグラウンドでヒートアイランド現象の緩和

東京都立忍岡高等学校

所在地/東京都台東区　活動時期/2024年8月～2025年1月

熱交換塗料は、太陽光を別エネルギーに変換して表面温度を抑える特殊塗料です。グラウンド表面に吹き付けることで、熱がこもらず快適なスポーツ環境を創ると共に、ヒートアイランド現象の緩和にも寄与します。

〈活動実施会社/太陽スポーツ施設株式会社〉

(左)熱交換塗料を用いたグラウンド　(右上)熱交換塗料　(右下)塗料吹付

公園における生物多様性への取り組み

猿江恩賜公園

所在地/東京都江東区　活動時期/2023年7月～現在継続中

猿江恩賜公園南園では多様な生物が生息できる環境を整えるため、エリアごとに草の刈高調整や外来種駆除などを行っています。中学校職場体験では保全作業を実施し活動理解を深めたほか、高校や大学、専門学校など地域との協働、取り組みの普及啓発にも努めています。

(左)中学校職場体験で維持管理スタッフと制作した粗朶柵(そださく)
(右上)希少種タコノアシ保全の様子　(右下)下池にてカワセミの番の営巣活動も確認されています。

エコ素材の作業服に一新旧モデルの処分はリサイクルに

日比谷アメニス 各事業所

所在地/東京都港区 他　活動時期/2025年5月～

社員が自ら製品の選定を行い、作業服を環境に配慮したエコ素材のものにリニューアル。素材には植物由来合成繊維やバイオベース合成ポリマーが使われています。旧モデルの作業服の処分は廃棄古着や繊維等を新しい繊維に生まれ変わらせる「B-LOOP®」の取組みに参画し、リサイクルをしていきます。

植物由来合成繊維を使用したエコ素材の新しい作業服

「透明封入標本」技術研修
動植物に関心を惹く“仕掛け”

夢の島公園・夢の島熱帯植物館
大井ふ頭中央海浜公園 なぎさの森

所在地/東京都江東区・品川区　　活動時期/2025年3月6日・7日、6月6日

透明樹脂の中に季節の生き物を閉じ込めて保存できる封入標本。この作り方を公園管理者が身につければ、各公園独自の花や推しの虫をいつでも掌の上で紹介できるし、イベントにも活用できる！そんな狙いでスタッフ研修を企画し、我々も大いに楽しみました。

〈活動実施会社/株式会社エコル〉

博物館から外部講師を招き、作業のコツや子どもが体験する際の注意点などを教わりました。

区民が大切にしていた公園を
新たな遊び場にリニューアル

荒川二丁目公園

所在地/東京都荒川区　　活動時期/2024年8月～ 2025年3月

荒川二丁目公園は、拡張用地を加えてリニューアル工事を行いました。区民が大切にしてきたシンボル樹のケヤキの大木や、ブランコなどの遊具も極力残すように工夫をし、新たにボール遊び広場や木陰ベンチ、遊具も加わり、遊び場として生まれ変わりました。

〈活動実施会社/北部緑地株式会社〉

シンボル樹のケヤキがのびのび育つ工夫を凝らして、周りにウッドデッキとテーブル・ベンチを配置。新しい回転遊具と移設して残したジャングルジムなど、人が集まる気持ちの良い広場が誕生しました。

バラ祭りアンコールウイーク

せんだい農業園芸センター
みどりの杜

所在地/宮城県仙台市若林区　　活動時期/2025年6月10日～6月15日

期間中に開花が遅れていたバラが6月に見頃を迎え、6月開催のバラ祭りは好評につき、「バラ祭りアンコールウイーク」として期間を延長しました。延長期間中は、職員の推しバラやバラの人気投票、バラのおやつマルシェなどを実施し、まだまだ美しいバラを楽しんでいただきました。

(左)バラのおやつのミニブーケ　(右上)鮮やかなピンク色に咲く「アンジェラ」
(右下)職員の推しバラを紹介したバラマップ

ボランティア団体の生物多様性保護

千葉市都市緑化植物園

所在地/千葉県千葉市中央区　　活動時期/野草園G：2002年12月～現在
水辺の植物同好会：2001年10月～現在

千葉市都市緑化植物園では、2つのボランティア団体が生物多様性保護の活動に取り組んでいます。「みどりの協力隊Leaves(野草園G)」は、貴重な野草の保護を目的に整美・除草・補修活動を行い、「水辺の植物同好会」は、絶滅危惧種を含む希少な水草の育成・保護活動をしています。これらの活動により珍しい植物を見ることができ、来園者を楽しませています。

(左上)みどりの協力隊Leaves(野草園G)による作業風景　(左下)希少な野草の「キエビネ」
(右上)水辺の植物同好会による作業風景　(右下)絶滅危惧種Ⅱ類の水草「ガガブタ」

いきいき園芸教室で
QOLの向上

西麻布いきいきプラザ

所在地/東京都港区　　活動時期/2015年7月～現在

港区立西麻布いきいきプラザにて、高齢者を対象に園芸教室を開催しています。植物を育てる体験を通じて、趣味や学びの機会を広げるとともに、地域の方々が生きがいを見つけ、生活の質(QOL)を高められるよう支援する取り組みを実施しています。

〈活動実施会社/株式会社グリーバル〉

(左)西麻布いきいきプラザ屋上菜園での園芸活動の様子　(右上)収穫物
(右下)教室で育てられた植物

実質100%再生可能エネルギー
を活用した施設の運営

県営天神中央公園

所在地/福岡県福岡市　　活動時期/2022年5月～現在継続中

公園内で使用する電力は全て実質100%再生可能エネルギーに切り替えを行っています。また、公園内で作業を行う際に使用する機械も電動化を進めており、イベントから管理作業まで環境に配慮した施設運営に取り組んでいます。

(左)クリスマスイルミネーション　(右上) 貴賓館ライトアップ　(右下)管理作業状況